

実践報告

地理探究の授業改善について

地歴公民科 井坂 拓海

担当学年：第2学年

目的：地理探究の学習を通して「考える力を身につける」こと、そして「世界を知る」こと。

目標：大学入試に対応し得る地理的思考力の育成。



●改善課題

生徒のニーズを捉えた授業展開をしつつ、地理学に関する興味・関心や思考力を高め、地理的な視点から現代世界への理解度を深めることができる授業の実践。



●改善内容

- ①問題演習を軸とした授業展開。
- ②対話的な学習。
- ③プリントや資料などの共有(Googleドライブ)。

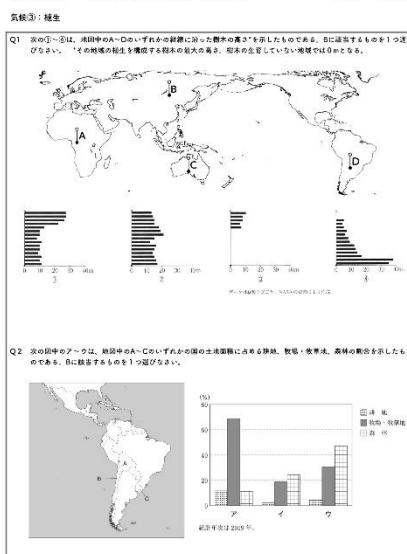
①問題演習を軸とした授業展開

毎時間、大学入試や模擬試験などの過去問題に取り組んでいます。問題は、基礎知識を要しつつ応用力も求められるような難易度のものを精選しており、演習をきっかけにして該当する単元についての基礎知識と、それらを応用して考える力を磨いていけるように心がけています。解答に必要な知識や思考過程などについては、板書をして整理しています。

なお、授業では「演習プリント」と「まとめプリント」の2種類を配布しています。「演習プリント」は、授業内で用いるプリントです。一方の「まとめプリント」は、習得してほしい基礎知識について穴埋め形式でまとめたもので、自主学習用です。授業内では扱いきれない内容をカバーしています。

地理探究 ～地理を通して世界を知ろう～

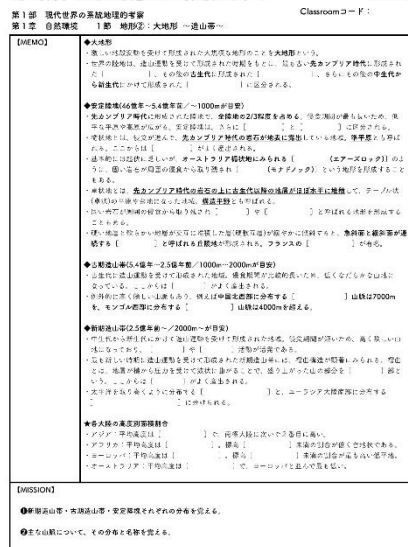
演習 No.5



▲演習プリント

地理探究 ～地理を通して世界を知ろう～

No.2



▲まとめプリント

②対話的な学習

学習指導要領の中に、授業改善の視点として「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」が挙げられています。そのうち、「対話的な学び」に重点を置き、生徒同士、そして生徒と教師間での対話の機会を意図的に増やしています。

生徒間では、4人程度のグループをつくり、出題された問題についてどのように考え、答えを導いたのかを共有しあったり、既習事項に関する内容の復習を短時間で行ったりしています。生徒と教師間では、グループ内で話し合った内容についてやり取りをしながら、全体で共有を図っています。地理探究では、答えは同じでも、そこにたどり着くまでの道筋は多様なことがあります。そのため、他者の考えを聞くことで、多面的・多角的な視点を養うことができます。私自身、生徒との対話の中で「そういう考え方もあるのか！」と発見することもしばしばです。

「対話的な学び」を通して互いに学び合う経験をする中で、思考力・判断力・表現力や仲間と協働する姿勢を育みつつ、生徒それぞれの「主体的な学び」・「深い学び」に繋がられるように心がけています。

③プリントや資料などの共有(Googleドライブ)

生徒が、いつでも、どこでも授業内容を振り返ることができるように、プリント(解答付き)や授業で使用した図・写真などの資料、スライドなどはGoogleドライブを用いて共有しています。

▲共有ドライブの一部

◆生徒による授業評価アンケートの結果より

- ・入試問題を題材にしていることについては、肯定的な意見が多かったです。
- ・また、板書に対しても肯定的な意見が多くみられました。近年はデジタル化が進み、板書よりもスライドを使用する機会が増えている中で、意外な結果でした。デジタルとアナログそれぞれの特性を活かし、うまく両立を図ることが重要であることに気がしました。